大船遺跡

草創期 早期 前期 **中期** 後期 晩期

遺跡存続期間：約1500年

おおふねいせき

大船遺跡

▲WEB MAP

所 函館市大船町575-1
Tel. 0138-25-2030
（問合せは函館市縄文文化交流センター）
時 9:00～17:00（11月～3月は16:00閉場）
休 年末年始
料 無料
ガイド 定時解説あり、団体は函館市縄文文化センターで要事前予約
P あり
Taxi 函館市内から約70分、函館市縄文文化交流センターから約8分
バス 函館駅から函館バス「川汲経由鹿部行き」乗車90分、「大船遺跡下」下車、徒歩約10分

大船遺跡全景

縄文ムードあふれる眺めのよい遺跡です

大海原が広がる絶景が魅力の大船遺跡。ここでは三内丸山遺跡とほぼ同時期のおよそ5500年前から1500年間ムラが営まれました。大船遺跡のある南茅部の海域は、北からの寒流と太平洋・津軽海峡から流れ込む2つの暖流が交わる豊かな漁場。高台の立地は潮目を観察し、海に繰り出すことのできるベストな環境といえます。そんな海に生きた縄文人の目線を体験できるのも大船遺跡の魅力です。

2m超えの深すぎる竪穴住居

竪穴住居の床面の深さが最大2.4mと深いのが特徴。防寒や防風のためなのか、あるいは床に適した赤土のローム層まで掘ったという説も。

北海道・北東北の潮の流れと海を渡ったおもな交易品

長距離を舟でゆく海のルートがありました

大船遺跡に人が暮らした約5500年から4000年前。比較的気候が温暖なこの時代は、各地に大集落が発達し、交流や交易がさかんになりました。大船遺跡から出土する土器は円筒上層式から東北南部の影響を受けた榎林式土器へと変わり、北海道には自生していなかったクリが出土しています。移動手段の丸木舟は見つかっていませんが、私たちが思う以上に、縄文時代の人々は舟で活発に動き、ものや情報の交換を頻繁に行っていました。

主食のクリは大量に出土

大量の石皿が出土

石皿は今でいうすり鉢やまな板にあたり、縄文時代の食を支えた台所道具でした。大船遺跡ではなんと2000点を超える大量の石皿が出土し、謎を呼んでいます。すべて石皿として使ったわけではないのかもしれません。一体何に使ったのでしょうか。